

邦楽現代

PRO MUSICA NIPPONIA

第19号 1987年

19 秋

100回定期へのメッセージ

特集 ● 座談会

100回目の定期を迎える意義と今後の展望

対談 ● 観世栄夫 ↑ ↓ 武谷三男



巻頭言

日本音楽集団の定期演奏会が百回目を迎えた。百回分のコンサートの曲目や出演者をじっと見直すだけで、私には躍動するドラマが甦ってくる。活字にされなかった部分も多いが、明折な方々ならば既存の記録からだけでも楽しい推理を働かすことができる。

「邦楽に青春を導入し、ヴィヴィッドな群像を躍動させ、日本の古典にも、また洋楽にもない響きを持った二十世紀の新興によって、内外の沢山のファンを獲得するのだ」という抱負の何割かを果し得たことは、日本音楽集団員全ての喜びであったはずだ。定期公演のみならず、海外での百六十回の公演を創り出す作業はまことに厳しかったけれども、私たちの目は常に輝いていたに違いない。

東西平和の切なる願いを響かせた〈急の曲〉の上演は、三年前にゲヴァントハウス管弦楽団との共演だけでも十回目になった。加えてヘルシンキ・ワイル、そしてソ連・フランスといった新しい地を廻ったあと、集団での二十年に転機を求めて私は冬眠に入った。オペラやバレエのために結局休むことも叶わぬ状態が続いているが、邦楽から距離を置いて客観的に見る時間は持つことができた。

今、確かに感じることは、二十数年前と比べて邦楽の奏者が平均的に技術を向上させたことであろうか。もう一つ大きな変化は、皆すごく忙しくなったらしいことだ。そして全てが拡散状態になり、各自の中に切なる「憧れ」がなくなったようだ。間断ないイヴェントはあってもドラマは見られなくなった。

これらの現象は、世間一般の傾向に酷似している。豊かさの中の醒めた目が全てをこうさせるのだろうか。

来年三月、私は久しぶりの振りに集団に直接加わってアメリカ公演でかつての役割を担当する。お行儀のよい並の旅行にはしないつもりだ。多少ヘマをしても、笑われても、燃え立たねば出掛ける意味がない。ニューヨークでは、集団だけで六時間のマラソン・コンサートなどもやる。百回の伝統などに落着かず、新人のつもりで、全てに破格を心掛けたい。

三 木 稔 (作曲家)

目次 ● Contents

巻頭言

特集／座談会

100回目の定期演奏会を迎える意義と今後の展望

上野 晃・小宮多美江・富樫 康・長尾一雄

第100回記念定期演奏会に寄せて

各界からのメッセージ

対 談 親世栄夫 ↑ 武谷三男

現代邦楽事情

田中家情報 への③

田中隆文

第五回全国小中学生華曲コンクール報告

牧本典雄

日本音楽集団定期演奏会報告

第98回定期

上野 晃

第99回定期

小宮多美江

美恵子の三味線みてある記④

野口美恵子

「小さな空間、大きな出会い」

工藤哲子

はうげん抄

日本音楽集団の主な活動記録

日本音楽集団の今後の予定

日本音楽集団メンバー表

お知らせ・編集後記

22

17

16

15

15

14

13

11

9

7

2

1

特集

上野 一九六四年に日本音楽集団が誕生した際は、当時大変な驚きでした。しかも第一回から芸術祭参加でのろし上がった。若い邦楽家たちと洋楽系作曲家たちの密なる連携とか流派を超えた集团的活動などが邦

楽ルネサンスを築いていく源流だったと考えられておりますが、そんな訳で日本音楽集団の歴史は現代邦楽の歴史でもありますし、ある面では二十餘年の開発とその歴史でもあるように思っています。(一〇〇回)「20数年の足跡」の中はいくつかの節目があると見られますので、その逆から反芻的に通っていきいたいと思います。いまだ記憶に新しい定期もあるでしょうが、今日お集まりの方は日本音楽集団の定期を始めて聞いてらっ

しやるのでそこからお話してください。富樫 日本音楽集団は始めからこれを組織する目的で作られ発生した訳でなく、そもそも東京尺八三重奏団が発生の原因になった訳です。この三重奏団の演奏会は実験的要素が強く、彼等が洋楽系の作曲家に委嘱したことが革新的な発展につながり、邦楽系を網羅した日本音楽集団を生み出さなければならぬ訳です。私はかねがね日本の新しい運動というものに一番関心をもっていました。それ

100回目の定期演奏会を迎える 意義と今後の展望

出席者

上野 兎(司会)
小宮 多美江
富樫 樫 康
長尾 一雄

までは洋楽系の作曲家は洋楽器だけを用いて作るのがしきたりでしたが、日本の楽器を使った創作と言うものに内心期待を持っていました。一足先に生れた「邦楽4人の会」でもそういうことが行われ、更に大きな組織の日本音楽集団が生れたのでショックを受けた訳です。特に第二回に発表された「日本楽器のための前奏曲」(三木稔作曲)が素晴らしいので、是非こういう運動が育って行って欲しいという期待をこめて評

論した訳です。

長尾 64年11月17日の第一回演奏会というのは、いろいろな邦楽の演奏会の中にも印象にのこった一つです。その時「くるんだん」をはじめ聴き、日本楽器の荒々しさ、という三木さんの標語のようなものに惚込み、以後そのことに拘り続けて今でも揺れ動いているわけです。「くるんだん」につづく初期の作品群には日本楽器を積極的に強い表現のためとか奥深い表現のためとか、影のう

えては多少出米上がってなくても、それよりも先に「表現」というものに重きを置いた時期であり、いわば何の運動にもあるように一番「青春の時代」といわれるものがしばらくの間続いたと思います。

76年12月17日の中央会館で初演された「巨火」(ほど)……この辺りが一つの節目だったと思います。つまり「くるんだん」の楽器の響きと「巨火」の楽器の響きを比べてみると「くるんだん」は今聴くとちよっと耳うる





さいと言いますが、そういう面があるとありますが、「巨火」は今度一〇〇固定期にもとりあげられるということが示しているように、現代邦楽ファンをカバーしていくような音色というものがかなり積極的に舞台に出たというところだと思います。その時の私の批評を思い出してみると、少しおとなしくなったとか、美音的になったとか、そういう意味のことを言ったと思います。まあ「くるんだん」から「巨火」までの一つの成熟の経過があったんですが、その間にはいろいろ捨ててきたものの、例えば三木さんのいった「荒々しさ」の半分位がもしかすると無くなったのではないかと……。それにかわって三木さんの「わ」という曲がありましたが、「わ」をもって世界の聴衆に迎えられるような、そういう世界に一つの転換をしたと。そのことはまあ半分良くて半分悪かったというような気がしています。ある程度成熟するための後退だったと「後退」という言葉を使いたい気がします。それはど三木さんの「くるんだん」あるいは標語のショックが強かったというところで、それから前には行けないというのが今の状態です。そのほかにも野坂さんの退団があったり、いくつかの節目や歴史をへて来た。しかし最初の精神は全部死んでいるわけではなく、大切な部分は生き残っているだろうと思います。

上野 今の長尾さんの話は大部分のちのとこまで来てしまったのですが小宮さんは如何ですか。記憶に残る

イベントとしての公演をあげて載く
と……

小宮 私ち中間のところが飛びそう
な気がするんですけど。第一回目
というのは中国へ旅行していて聴い
ておりませんが、その後は殆ど聴い
ている筈なんです。やはり最初のこ
ろの三木さんの「古代舞曲によるパ
ラフレーズ」とか長沢さんの一連の
曲を聴いて非常に期待のもてる団体
が出来たという印象をもちました。
70年代を過ぎる頃までの間にちよっ
と感じたことは、私の現代邦楽に対
する期待が、そのまま援团的な聴
き方になっていったということ。そ
の後20周年（一九八四年）に近い頃
になりますと、本当に自分が心から感
動する音楽に巡り会えるようになって
たなと感じたことです。個々の演奏
会の節目というのではなく、そのよ
うな私の聴き方の上での節目を感じ
ております。

◆

上野 第二回目・第三回目的のプログ
ラムを見ると、指揮が横山千秋、作
曲長沢勝俊、三木稔、元橋康男、船
川利夫と四人の作曲家が書いてある
便宜的によく座付作曲家と呼んで
ますが、三木さんなんかは大要こ不満
のようでした。集団の初期にはその
座付作曲家が演奏スタイルというも
のに影響を与えたり。あるいはまた
作曲家のほうが継続的に演奏から影
響を受けたりして相互に大きな役目
を果たしたと思うのですが。

長尾 それはおっしやる通りだと思
います。座付という言葉のニュア
ンスが多分座付ではなく自分は自分
でやっているんだと三木さんは思っ
ていると思う。三木さんの作曲に
対する理念が変わってくると集団
の理念も変わってくるという面が
ありますね。

上野 三木さんと長沢さんとは作
風がまるで違う訳なんだけれど、
長尾さんが前からしばしば言われ
ている集団はアンサンブルではなく
ザリステンだということ。スタイル
の違いがあるけれど、どっちかと
言えば長沢さんの方はアンサンブル
であり、三木さんの方はザリステ
ンの曲が多かったように思うん
ですけれど。

長尾 だんだん三木さんの影響と
言うものが後退して行って長沢
さんの決して強くは主張しない
けれど長く保つという影の影響
力が生きてくるそんな段階で
まあ多くの大物ザリスト
ンがやめて行きますよ。これには
忙しくなったとかいあんな理由
があるんだけれど、そうすると
さっきの「荒々しさ」から他の
部分へと言う変化が、一つは
そのザリステンからアンサン
ブルへの変化と言うことにも
見合っているわけだし、最近
はザリステンの要素を秘めなが
らも、かなりアンサンブル的
になってきたと思っ
ていますけれど。

上野 富樫先生はアンサンブル
かザリステンかの選択になっ
たら、どちらを支持されますか。

富樫 アンサンブルでもあり、
ザリステンでもあると思います。各々

が独立して成立するような有力な人が集まっていたことでは、ゴリスティンで、しかしそれが協力してお互いのバランスを保ちながら曲をまとめていく、これはアンサンブルです。

ゴリスティンの集まったアンサンブルである訳で、始めからアンサンブルの一員として集まっている大きなオーケストラのような集合体とは大分違うと思います。ペルリンの演奏会をやった時の最初の批評には、各々がソリストであると言うことも書かれました。註・富樫氏は一九七二年の日本音楽集団第一次海外公演に同行。

上野 座付作曲家という言葉が適當かどうかはさておき、そういう集団と密接な関係にある作曲家が何人かいて新しい作品を書きあるいは演奏を指導して行くことの良い面と悪い面があると思います。

小宮 良い面と言ったら何かと考えると、演奏家も育ってきた運動です。ね。作品を作りながら演奏しながらと言う密接な関係の座付作曲家がいたと言うことはすごく大きなことだと思います。マイナス面と言うのは、閉鎖された座付作曲家だけのと言う場合であって、そういう方向はとらなかったのであまりマイナス面は考えないのですが、むしろどういうプラス面があったかと言うことは、ちょうど二人の作曲家がそれぞれの個性を持って接して行った。先程のゴリスティンかどうかと言う問題もその辺がうまくかみあってプラスになったと思います。何と言って

も合奏というものの歴史がなかった訳ですから、ゴリスティンから優れた人たちのアンサンブルとしてあるところまで進めたというのは非常に良かったと思います。ゴリスティンのために作った作品であつても、それが最近のように後からパートが複数になつて行つても可能だと言うのは、そういう作品が既に作られていたという事です。座付作曲家の問題とか、ゴリスティンやアンサンブルの問題など、いろんなかみあいてもつてプラスとして評価されるべき問題だろうと私は思います。

上野 内輪の作曲家ばかりだと悪い面も出てくるので外へ委嘱されたのだけれど、ある時期、委嘱作曲家に限られてきて一定以上ふえてゆかないという傾向があつた。その時に公募という別のやり方が生まれてきたと思うんですけど、今まで何回かの公募でなかなか良い作品が出ていますね。記憶に残るもので、確か津軽の佐藤隆は二回入っていますね。

それから前田行央、中村滋延、水瀬博彦、新実徳英など、なかには公募を通じて頭角を現してきた若手作曲家もいます。もう一つ外国人の作品、コロイター、ネイル・マカイ、ヘンリク・ノルドグレン、デーヴィッド・ロープ、王燕樵などがありましたね。こうして作品の面から実に多彩な創作があつたし、それにつれて集団としてのアンサンブルの順応力も高ま

つてきたと思うんですけど……。またある時期洋楽名曲をアレンジして聴かせるという企画もあつた。

長尾 第四回のアンコールでバッハのロンドをやり、「これから世界で初めてのことが始まります」とコメントがあつたことを覚えています。この評判が良く、次の回には本プロに入れた。ドビュッシーが第七回にありましたね。

上野 それから「加藤登紀子とともにフォルクローレをたずねて」といったエンターテインメント方向のコンサートもありました。

富樫 バッハのロンドは第一回目のヨーロッパ演奏旅行の時ベルギーのゲントでやったものすごく人気がありましたね。

上野 さっき現代邦楽の歴史でもあると言ったんですが、そうしたなかで古典邦楽との関連はどうなっているかと思つてみたら、あまり日本音楽集団で古典を聴いた印象がない。しかしあらためて一覧表を見ると第一回から「千鳥の曲」が入っている。古典に対する姿勢というのが日本音楽集団ではプログラムの中心に反映され生かされているか今一つ掴み難かったのですが……。

長尾 ええそれは「4人の会」でも姿勢は同じで、始めのほうに「尾上の松」とか古典を入れて割合いきなりと演奏して行くというやり方なんです。日本音楽集団も「千鳥の曲」



長尾 一雄 氏



富樫 康 氏

にしても第三回目的「下り葉」にしてもかなりきちんと演奏していたと思いますが、全体のイデオロギーが日本楽器の新しい表現というものに向いていて、何となく古典も新しくなっているという面があった。「4人の会」は構成メンバーの年齢とかもあって、古典というものがある程度身についてから古典の演奏家としてやって行こうかなと思った位の人が現代物をやっていて、両方に引きずられての緊張みたいなものが「4人の会」を作ったと言います。

日本音楽集団でも始どろの人がきちんと古典の勉強をしてきて、中には古典の名人と言われるような人が創立から居るといふこともあったけれど、全体のイデオロギーがまあ一つの方角へ、悪く言えば暴走したし、流れにのって古典を再検討しようという何がかの意識がそれぞれの人の心の中にあったと思います。後にその方向をやめて古典に帰って行った人もいますけれど、ある時期まではこれで新しい時代が来るんだという気運がありました。そういう雰囲気のプログラムのなかでは、古典が良い演奏でも目立たなかったと思います。

第三回目的「下り葉」は宮田耕八朗、横山勝也の連音による即興演奏でしたが、宮田さんという人は国内で本曲を演奏することは非常に珍しい人でアメリカで本曲の全集レコードがあったりする人、二人とも古典に対してかなり微妙な態度を持っている人です。特に尺八というのは西洋音楽風な演奏もしやすいですし、古典



を通じて新しい時代をという意気込みがこの頃あったと思います。そのようななかで、例えば野坂さんのリサイタルの時「六段」や「みだれ」の表情について「これは実験途中ではないか」と町田佳声さんあたりに受取られもした。現代音楽の面では両方抜きつ抜かれつつですが、古典の面では「4人の会」よりは新しかったと思います。

富樫 古典にあまり詳しくない人にとっては、例えば古典の長さに対する退屈さというものを現代人は感ずると思うので要約した演奏でアピールし、チャンスを広げる必要があるのでは。

長尾 その短縮が古典としては軽くなり不満に思う人もいます。そういうところから古典も含めて日本音楽の新しい魅力を探り出そうという努力があった訳で、その点はまだ追究不足だと思います。

上野 古典には大合奏曲がない訳だから集団ではどうしても古典はアレンジ抜きで扱いにくいんですね。

長尾 第三十四回には「新八千代獅子」が編曲・初演され、以後しばしば演奏されているし、これは成功していると思います。

上野 最初の頃の、なんでも鳴らしてやろうという実験的時代と今日の演奏様式とはかなりの違いがあります。その担い手たちも伝統音楽の重厚の中をいくぐってきただけの初期の人達、精神的に非常に自由な新しい土壌から育ってきた第二世代ともいうような人たちが、それからさらに最近では全く別の価値観で日本音楽集団に参加してくるような若い新人たちもいる訳ですけど、そんな中で今後は、かなり違ってくるのではないかと思います。研究生制度というのがあります、これはどのようなように見ておられるでしょうか。

富樫 例えば有力なオーケストラが新人を入れてるように、日本音楽集団でも世代交替はあり得る問題です。それから後継部隊を育てるということも大事なことでと思います。

上野 日本音楽集団のフル編成になっても定席のない楽器というのはいくらもあります。笙とか竈（カマエ）などの雅楽系の楽器が多いかと思いますが、富樫 最近では胡弓がひんばんに入っていますね。

長尾 ええ、畦地さんが大分頑張っていますから。

上野 今のアンサンブル形態は本当に定着したものなのか、あるいはもっと他のものが加わって膨らんでも

良いものなのかという点なんです。

長尾 邦楽器と言うのは実際いろんな国の影響を受けているとか、いろんな時代の楽器があるとか、決して筆・尺八・三味線だけではなく、多様なものだと思います。音色の点で面白かったのは、具体的な作品でいうと三木さんの「古代舞曲」による「ラフレイズ」とか、安達元彦さんの「邦楽器のためのシャコンヌ」ですね。シャコンヌの方には雅楽器が入っていて初演の時以来ずっと宮内庁の人たちの協力を得ています。たくさん楽器が必要で集団だけでは不可能という場合に、例えば東京音楽から何時でも客演できるというように、現代邦楽の演奏グループの中で横の連絡が密にとれている態勢というのは発展のためには一番望ましいと思います。

小宮 特に雅楽の楽器が客演を頼まないためと言うのは残念な気がしますが、



になり幅も出ると思います。とにかく合奏としての演奏様式が変わってきた。概して演奏がスマートになり攻撃的な曲が少なくなりましたね。

長尾 最初のエオルギーがもっと何かの形で反映して欲しいと言うことはありますね。

上野 現代邦楽で声楽の面が一番遅れていると言われていますが、もしそれを日本音楽集団の組織と機能で取り組んでいくとすれば、どんな形が理想なんだろう。独唱とか合唱とかではなく、伝統的な発声に関わる声楽を取り入れていくというのは大変難しいし、またそれゆえに今まで停滞してしまっているのですが。

長尾 例えば長唄の発声によるボーカリーズとか言うのがあっても良いと思います。ただ楽器だと今まで全然やったことのない弾き方をしても元に戻れますが、声は壊れてしまうことがあるので怖いと思います。朗読などの入った作品でナレーターが歌ったりした例も何度かありますよね。これも大体洋楽の発声になってしまいうし、その辺りの新しいボーカリストの養成が少ないリスクで出来ればそれは一つの方法だと思います。

上野 どちらかと言えば洋楽の音楽を勉強した人がもう少し日本伝統音楽の発声に近づいていってよいのではないかと、その方がむしろやり易いと思います。

富樫 そうですね、もっと洋楽の人が参加して、はっきりとした日本語で歌える歌を作りたいと思います。



長尾 それと委嘱の方向が洋楽系作曲家に限られている傾向がある。確

か杵屋正邦さんの曲が何度か演奏されていますが、邦楽系の中にも委嘱してみたい作曲家が何人かいます。

例えば中田博之さんとか。そうすることで集団の演奏の方向に一つの変革を与え得るかもしれないと思います。それから集団で「八千代獅子」や「越後獅子」の編曲がありますが、数多くある邦楽曲の中から魅力的なメロディーをテーマにしたパラフレーズとか変奏曲とか、例えば「尾上の松」の前半の三味線の譜だけをテーマにした変奏曲を書くのなんかは、とても面白いんじゃないかと時々思います。

上野 作曲家に委嘱する際、いろいろ注文をつけて頼むほうがよいし、確かにもう少し邦楽系の作曲家で洋楽的数値を持った人に委嘱すべきではないかと思えます。中田さんなどは本音に面白いかもしれない。声の方にも造詣のある人ですから。

長尾 三味線なんかでも新しい弾き方は一杯するけれど、古典的なハジキを指定する作曲家もいて良いと思います。

上野 邦楽器というのは本質的にアンサンブルと言う機能には向いてない楽器のように思うんですが、それをアンサンブルとして追究する訳だから「群」になったり、ときには「個」に戻ったり、両者を往復するパターン



は今後も繰返してゆくのでしよう。

長尾 例えば十七絃と言うのが合奏楽器として開発されて、やがて「個」の楽器になって行く。二十絃は両面の性格を持って出た訳だけれど、その扱い方についてはまだ完全な答えが出ていないと言えないし、研究の余地があると思います。



小宮 長尾さんのおっしゃる邦楽系の作曲家に委嘱したり、ハジキの演奏をと言う発想の中には、従来の邦楽の聴衆も日本音楽集団の聴衆にと言う思いからなのではないでしょうか。

長尾 それは、これからは古典と現代と両方に通じる人格でなければいけないと思うんです。現代邦楽というのには、演奏する側から言えば、例えば三味線の古典の技法は三味線が一番良く鳴る技術っていうのを開発して長年来ているわけですから、古典の相当程度出来る人が現代邦楽の中でも一番楽器が演奏出来るということですね。日本音楽集団の中にもそういう例は何人かあるわけですね。聴き手も古典と現代の両方を聴かなければいけないと思えますし、外国の音楽で言えば、例えばベートーベンとシェーンベルクの両方を同じレベルで聴くということが現代の聴衆に要求されていると思えます。邦楽の場合も同じであって、まあ非常に洋楽以上に離れたものに見えますが、

本音は同じものとして聴いて貰わないと、古典そのものも我々の生活のなかで生きて行かないし、現代もまた枯れたものになってしまうだろうと思います。一種の理想なんですね、けれど、いつもそういう風になりたいと思っています。



上野 さっきから話しているように演奏の方は変わって来たように思うんですが、作曲・作品の方はそれに見合うほど変わっていないような気がするんです。

長尾 最近の新しい作品を聴いていると、冒険が少ないような感じがします。

上野 最初に言ったように、やはり邦楽器そのものが解つてくるとだんだん無理冒険出来なくなってくると思うのかもしれない。それだけではなくて、今の日本の作曲全体の穏やかさと言うか、マイルドでスマートな作品が多くなっている。したがって現代邦楽の曲だけではないと思います。

富樫 昨年の開宮さんの「タクシム」、池辺さんの「天点譜」は攻撃的な方ですね。

長尾 攻撃的だけど一つの枠がありますね。

上野 池辺さんとかってほど攻撃的ではない。開宮さんは今でも、意外な激しい音像をぶつけてくるけど、富樫 開宮さんの「タクシム」は素晴らしい作品でした。ああいう作品が時々出て欲しい。集団が外に委嘱した作品が最近あまり取り上げられないでお蔵になっているように思えます。その作品が果たして満足された演奏であつたかどうか疑問にも思っています。もっと良い演奏で曲の実態が明らかにされるということも期待しています。

長尾 それは合奏曲だけではなくて、例えば三木さんの尺八ソロの曲「孤響」等ほっと演奏されて良い曲だと思えます。いつか坂田誠山が久しぶりに演奏して面白かった。それぞれの「孤響」があつていいと思います。

小宮 私も同感です。再演になればなるほど「ハッ」とするような新鮮な演奏があつて欲しいし、それが作曲家を刺激するきっかけになるようにして行かなければならないと思います。全体的におとなしくなつたと言ふのは、新しい音の素材を探った



時代を経て、無駄なものはそぎ落としてゆく時代になっているのを反映していると思えます。日本音楽集団は運動体だから、逆にそうなら演奏の側が刺激的になつて行くというような関係を作つて欲しいなあと思います。

上野 確かに注目すべき作品だったのがいつの間にかお蔵になつてしまっているものもあると思えますので、再演に対しても評価の目を光らせて行きたいですね。初期の頃の激しい曲が敬遠されているような気がします。かつての演奏と比較して再演を聴くというのも楽しみの一つです。

最近いよいよ定着し始めたメイソンのサロ・コンサート、これは本公演では扱いにくいテーマとか企画を實行している貴重なコンサート路線だと思えます。自作自演も含めてなかなかユニークな曲も現れるし、邦楽器に対する教養を培う場でもあるし、本公演にない別の楽しさがある。大切な路線です。是非続けて発展させて行つて欲しいと思います。

もう一つ、海外公演もやはり今後の重要な事業にちがいないでしょうが、こちらから持出しばかりではなく、外国から得られるものもたくさんあるのではないかと思います。それがどういふふうなアクティアルに日本音楽集団の演奏に反映され生かされているかが、いまよりもっと明らかにされてゆくだろうと思えますし、アジアとの関連をさらに深くして行つて欲しいというのの一つの願ひでもあります。

演奏会に寄せて メッセーヂ

たとえば最近のロック・コンサートでは、照明・美術などが演奏の重要なエレメントになっております。あなたも、もつと「見る音楽」であるべきです。光立てしてほしい、色好みであってほしい。目新しく、耳寄りな。

秋浜博史

一〇〇と云う回数、重みを音楽仲間の人々として誇らしく感じています。第一回定期のあの感動と衝動を今、新しいエネルギーに変えて、二十一世紀へつないで下さい。

安部圭子

日本の新しい音を創ろうと集団の皆さんが長い間努力を積み重ねられた一〇〇回と、今後益々素晴らしい発展を遂げて欲しい第二回に向けての一〇〇回のスタートを祝って乾杯したいと思います。おめでとうございます。

美谷俊治

おめでどうございます。思いつくままの無責任な提言を二、三――①新作委嘱をもっと活発に。②声の分野での問題提起を、③邦楽・洋楽を問わず他グループからのゲスト招聘、または提携公演（交流試合のススメ）

池田遼子

邦楽器なら何でも、の形態にはじめなじめなかった。が「日本音楽集団」をより知るにつれこれは「新しさ」であり「新しさ」も伝統に含まれて行くことに気付いた。百回定期のフシメを越え、なおさら続けるものに期待する。

池田遼子

邦楽器を身近なものとし、その音楽の可能性を広げた日本音楽集団の永年にわたるコンサート活動に尊敬とお祝いを申し上げます。どうかいつまでも門戸をひろげて、誰もが参加出来る音楽の広場であって下さい。

井坂敏

日本音楽集団の音楽運動の中心をなす定期演奏会が、百回という大きな節目をむかえられたこと、大変意義あることとお喜び申し上げます。団員各位の御努力、御協力のもとによりより多岐にわたる発展を御期待申し上げます。

石田一志

たくさん、本当に心もそして体が熱くなるほどの思い出があるいくつかの指環をした公演、これからのただただ質を高めたいと望むばかりです。そして洋楽・集団のようを中心に人物をはっきりしたくないこと……出来るのね？

井上道義

三木悦さんと日本音楽集団に「愛のコーダ」でお世話になってから十年以上になる。その間のたゆみない研鑽と発展、団内外での大活躍に心から敬意を表したい。そのうちまた一緒に仕事をしたい。

大島清

第百回記念定期演奏会おめでとうございます。第百回の魅力的なプログラムは、大きな組織の集団ならではの楽しみ演奏会です。新しい日本の音楽の発展の為、どうぞ何時までも続けて下さい。ようお祈り致します。

菊地博子

おめでどうございます。一〇〇回の定期、度々の海外公演を含めての生々あふれる長い活動は敬意を表します。一九六四年の第一回定期のプログラムの人々諸君の若い写真を見ながら、益々盛んな会員諸君の情熱に感動します。

岸成雄

おめでどうございます。集団と邦楽家との会合は、国内はもちろん海外でも活発な演奏活動をくりひろげて来ましたが、この際お互いに新しい気持ちで、日本の音楽をより多くの人のものになるよう頑張ります。

北原重山

私事で恐縮ですが、昭和十七年に第一回発表会を持った私は本年十月に漸く第二十五回を閉幕いたしました。音楽集団の第百回は正に絶頂の結晶によるものと心からなる祝意を呈し、今後一層の御発展を祈念してやみません。

岸正邦

邦楽器は、日本の文化の中でそれぞれ個々に培われてきた。集団がこの東洋楽器を熱く語り口で響かせ、聴衆に驚きと感動を呼び起こした。歌をいえる演奏に、もっと内なる情熱（五線譜を越えて伝わる）がほしい。

工藤秀也

音楽はいつも今を生きていたいと思います。その意味で先頭集団を走ってきた日本音楽集団の姿は、多くの問題を抱えていてもりりしかった。今はもう一度私たちにとつての音楽の意味や形を問い直す時かも知れません。

小島美子

一〇〇回記念おめでとうございます。筑波万博での「八郎物語」合同公演はかしこく、素直な想い出として今でも話題になっています。再び良い出会いの持てる事、集団が益々発展される事を心から祈りしております。

後藤圭

確實に日本音楽の伝統を呼びつづけて今日第百回定期演奏会を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。ともすると音楽の源流を西洋音楽におきかえがちな日本人の考え方を一回一回の定期演奏会の中で明確にその姿勢を示されていく皆様に敬意を表します。今後とも日本人の心をとりこめ日本国内そして世界に向けて大いに羽ばたいてください。

近藤真司

第百回記念定期演奏会、誠にありがとうございます。一口に一〇〇回と書いても、この積み重ねは、大変な功績だと存じます。日本音楽発展のために、第二〇〇回に向かって前進して頂くことを切望しております。

佐藤幸山

輝ける百歩と、新たな一歩に乾杯。三枝成章

多くの試練をのり越え日本の現代音楽創造に成果を挙げている日本音楽集団に敬意を表し、今後創作・普及の両面にわたり、意義もあり、聴衆に支持されるよい仕事をして下さるよう期待しています。

佐々木光

芸の伝承と現代化、聴衆をどう広げ育てるか、そして創造集団の運営面の充実、何よりも毎回心に残る企画・演奏、いずれも大きな課題を背負い、一歩一歩踏み進めて、いま百歩。お祝いとともに、初心もまた一歩を。

佐藤克明

個性的な方々の集り、傍目にも先行きが案じられましたが、ついに定期公演百回の金平塔を建てられました。音楽を愛するが故の快挙と心からお祝い申し上げます。今後とも全世界に日本音楽の素晴らしさを披露して下さい。

芝祐晴

日本における音楽創造と音楽演奏の歴史に、まったく新しい伝統を樹立しつつある日本音楽集団に敬意を表します。また、第二回と第六回定期に、わたたくの「メタファー」を演奏して下さい。感謝申し上げます。

柴田南雄

百回記念演奏会、心よりお祝い申し上げます。まったく素晴らしい一言です。旧い邦楽の世界の中にあつて、この集団の新しい創作曲のみで定期公演を百回も続けたのは正に偉業です。創立から十五年間、私もメンバーとして参加させて頂いた事を、今は誇りにおもっています。

佐藤幸山

数かきらない集団の活動の想い出は、今までの私の音楽歴の中でいちばん新鮮で輝いていた様に思えてなりません。続ける事は非常に困難で大変でしょう。でも、百回定期を過ぎて、ユニークな邦楽のアルサンブルを完成して下さいます。そして、新しい音楽を創って下さいます。おめでどうございます。

三浦弘和

困難を乗り越えてここまで開拓者の道をひらいてこられた集団に敬意と感謝を表わします。これからはいっそう「考える会」であって下さい。洋楽とのつきあひ方、安易な道ではなく、自己否定の勇氣も時に持ちながら。

助川敏弥

第百回記念定期演奏会、誠にありがとうございます。一口に一〇〇回と書いても、この積み重ねは、大変な功績だと存じます。日本音楽発展のために、第二〇〇回に向かって前進して頂くことを切望しております。

佐藤幸山

各界からの

私はかなり初期の頃から聴かせて頂いています。六〇年代の西洋文化第一主義の時代から、日本の伝統と現代を双方に担いながら、一〇〇回に及ぶ今日まで、謙虚な情熱をもって研鑽されてきたことに心から敬服致します。

デヴィッド 田中一光

百回忌の定期演奏会、心からお喜び申し上げます。本日はそれだけで音楽界である日本の姿を集めて大演奏するというのは、新しい音楽の可能性を現代に押し上げた点で正に史上初目すべき出来事であったと思います。

作曲家 田中利光

百回とは何と驚嘆すべき実績でしょうか。様々な推移を経ながらも常に音楽界の現代をリードされた偉業を讃えます。団員の方々は、当初から現在に至るまで御株の深かった事を光榮に存じております。

演奏家 谷珠美

演奏歴一世記、ただ驚きです。おめでどうございませう。苦しかったでしょう。恨んだことでしょうか。しかし、花は確実に開きました。歴史を次々とめりかえてください。常にアマチュアをリードしてください。期待しています。

杉山邦子 茅原秀男

創立二十三年にして第一〇〇回の定期演奏会とは、そのエネルギーと行動力に脱帽です。私を活かせる場所がある。と、前途ある人達が集り、生き、そして通り過ぎてゆく。いつ迄も水の源めグルーブであって下さい。

正清孝元 中島清子

僕たち自身の楽器「日本の伝統楽器」による新しい発見や発明に出会うこと、そしてこの創造、演奏活動が大きく広がっていくこと、このこそ日本の次の音楽にとって最も大切なことと考えています。祝、第百回。

作曲家 新美徳美

ビバグ 日本音楽集団 常に新しい創造への勇氣に對し同時代人としての誇りを感じ、又、持続させることへの努力に對し、心からの敬意と、更に未来への期待をこめて拍手を送ります。ローマにて

三井物産 西澤昭子

百回定期オマデトワ。集団のこれまでの発展は、驚かれた姿勢のバイタリティにこそ原動力がありました。百家争鳴、議論百出、百花齊放、百花繚亂の今日です。そこでもう一つ、次なる百回への飛躍（ヒヤク）をどうぞ。

音楽評論家 丹羽正明

懸命に背伸びをして歩み続けた百回の歩みは、日本、西洋、東洋への垣根をもった貴重な経験であった。現代の音楽を考える意味で集団のこうしたものは実に大きい。増々技を磨き、新しい批評と戦い、真摯を極めたい。

批判家と批評家 平野英俊

おめでどうございませう。量だけの一〇〇回ではなく、質をもった一〇〇回だということに拍手をおくりませう。集団の仕事は、伝統と現代が交錯しているこの国で、伝統と現代を重ね合わせる働きなのだと思えます。

演出家 小じたあさや

第一〇〇回定期演奏会おめでどうございませう。日本の音楽を原点から見据えて、それを普遍的な高度な芸術音楽へと、毎日こつこつと努力を続けていられた集団の皆さんに敬意を表します。これからも益々頑張って下さい。

作曲家 堀島雄次郎

一〇〇回記念演奏会、これまでの活動は、想像以上に貴重な役割を果たしたに相違ない。日本音楽の新しい創造、大仕事が集団の努力によって、日本・海外にまで広げられたことが驚きを通り越して感動を呼ぶ。

指揮家 藤井公

第一〇〇回記念定期演奏会おめでどうございませう。貴団の益々のご発展をお祈り申し上げます。

F.M.東京放送 細野啓一

第一〇〇回定期演奏会おめでとうございませう。これだけの長い活動を経てこれだけのことに敬意を表します。これからも現代音楽の推進役として、より市の広い視野に立って発展されることを、心より希望します。

作曲家 牧野由多可

いつの時代でも、新しい音楽を現代から未来に向けて実行することは、常に試練の連続ですが、一つの歴史を作るといふことでは大いに意義のある事です。集団のエネルギーを結集して、これからも頑張って下さい。

音楽家 宮下伸

記念演奏会おめでどうございませう。定期コンサートの新しい曲への憧れと不安と喜びを共にすこした日々が走馬灯のように思い出されます。ますますのご発展を願います。これぞ集団の音楽と世界に響かす事を期待いたします。

十七回定期演奏会 宮本幸子

おめでどうございませう。百回といえは大変な回数です。心から拍手をおくりませう。先日、第一回発表会当時のスナップ写真が眼に触れ、感懐ひとしおでした。これから益々佳い音楽を創り、回数記録を伸ばし続けて下さい。

尺八演奏家 村岡実

「第一〇〇回定期演奏会」素晴らしい実績です。私も日本音楽集団の熱烈なファンのひとつとして心うれしく存じます。とはいえ、一〇〇回の定期演奏会のうち自分が何回伺っているかと思うととても恥ずかしく思っています。

本橋 朝家小三治

来る十月十三日の定期公演で第一〇〇回記念を迎えられたこと、誠に見ごとき、心よりのお慶びを申し上げます。さして頂く、むろん、これで、もの終りを、完結させた訳ではない、次なる二〇〇回に向って改まったスタートを切に願っております。

作曲家 矢部洋文

三年くらい前に今の地下練習所に行った事があり狭い部屋で頑張っているなど感動しました。ひと口に「一〇〇回」といいますが一回々々の会の成り立ちを思う時、この事だと胸が下がります。ますます「発展」して下さい。おめでどう。

作曲家 山内喜美子

音楽移入以来百年余り、漸くそれらを消化吸収して自らを記すべき時が来た。今こそ温故知新、音色や音律の次元を超えたところで新しい日本の音を求め実現して聞かせてほしい。私は日本音楽集団の活動に期待している。

日本音楽協会 山岡知博

十四人が六十人余、定演が百回とは!? 気球みたいに膨張して空高くとんで行きそうな集団。だけど古い顔や名前が滲み出てゆくのが寂しい。百回を踏台に若人達の燃えるエネルギーを期待します。集団がんばれ。おめでどう。

第一回定期演奏会 名器員 山田美貴子

第一〇〇回記念定期演奏会おめでとうございませう。音楽集団創立当時数回いっしょに出演した事を思い出されます。誠になつかしく感じています。益々の充実したコンサート、心より期待しています。がんばれ。

尺八演奏家 山本邦山

第百回記念コンサートおめでとうございませう。創造者として、フロンティアとして集団が果たした役割は実に大きなものです。どうぞ今後その責任の重さを自覚されつつ、多くの期待を背負って頑張って下さい。

尺八演奏家 横山勝也

さわやかな雰囲気につつまれ、日本音楽集団の会は、ステージも客席も好感がもたれます。第一〇〇回記念定期演奏会まで、よくがんばってきたものです。邦楽の将来もなつて新たな開拓の道を、熱く期待します。

三味線演奏家 尾崎屋児

(アイウエオ順)

対談

BIG DIALOGUE

観世栄夫 ↔ 武谷三男



反核・平和のためには……



「科学を使うなら本当に科学的に使ってほしい……」
武谷 三男 氏

武谷 今年八月に観世さんたちが広島、鳥の郵便貯金会館ホール及び国立音楽堂でおやりになった、中楽の座「反核平和のための能と狂言の会」のパンフレットを読ませていただきました。古典的能を反核の場面で皆に観せようと、反核ということをやらなければ安心してこのすばらしい芸術を観ておれんぞと、いろいろなお話しが書いてありましたが、どうですかその点は。

観世 僕は終戦後長い間色んなことをやってきたんですけど、ここ十年くらい能ばかりやるようになって、技術主義みたいになってきちゃって、意見なり生きる方向というのを出すようなことをやっていかなきゃいけないんじゃないかというんで、何年か前から遅ればせながらこの会を始めたんです。おかげさまで好評でして……。今年は三回目ですが、やってゆく中で色々なことを考える

武谷 きっかけにしたいと思っております。武谷 そうですか。それで、この公演の曲目は、そういうことを考えるきっかけになりそうなテーマを持つたものをお選びになったんでしょうか。

観世 ええ、一回目は「藤戸」というのをやって。これは戦争の中で佐々木守綱が備前の児島を攻略するの、馬で海を渡れるところはないかというんで、地元の漁師の青年に教えてもらうんですが、他の人にしやべらないよう殺してしまおう。後でこの漁師の母親が恨みごとをいう、そして後半に殺された青年の亡霊がでてくるというふうな能なんです。戦争による犠牲者の怒りを扱っています。それから二回目にやりました「清経」もやはり戦争の中で自殺した平清経と残された妻のやりとりが出てきます。今回の「隅田川」は直接戦争とかかわりのある題材ではありませんが、人間の愛情を本当に吐露できる

のは色々な障害のない時じゃないとできないということ……。まあ、ですからそういう意味で反核・反戦に近い題材を選んできたつもりです。狂言の方は、第一回に「宗論」(註)をやりました。これをやったら、原水禁と原水協ともめているのを皮肉ってやっているんですかって言われまして……。 (笑)

武谷 それはおもしろい。 (笑)

観世 ばく達も色々やっているわけですが、一番先生に伺いたいのは、僕は夏は冷房、冬は暖房、必要もないのに表に出ればすぐ車に乗ったり飛行機に乗ったりしている。明治の頃に消費していたエネルギーをいざとすると僕は千倍、いや一万倍くらいでしょうか。つまり地球上のエネルギーが有限で、地球の命が例えば後一万年位のものだとすると、これではあと千年位しかもたないのではないか。だから、本当は戦争反対とか核兵器廃絶等と言うのも大事だけど、こういう問題も切実ではないかと……。 (笑)

武谷 ええ、そのとおりです。私が五年程前に「科学大予言」(カッパブックス)なんて名前の本を書きました。これが今のお話しにお答えできていると思います。つまり、核戦争になったら人類の絶滅はほとんど白明のこのというの皆さんよくおわかりになっっていることですが、戦争でなくとも、今日のものすごい力をもつ科学技術を金もうけのために使いたい放題に使うと、今度は一挙にてはなくじんわりと人類の絶滅の方向へ向

性ができた、推進派の人でもまじめな人は認めていますよ。

それと、例のフロンガス。天のオゾン層に穴が開いて紫外線が入ってくる。紫外線は長波長のものはある程度必要だけど、宇宙から波長の短い方のものがどんどん入ってきて、人間の体に当たると皮膚ガンその他の害を及ぼすと、今大騒ぎしていますよね。おっしゃるとおり、金もうけのためにいい加減なことやっていると、それだけで人類の絶滅ということになるんです。

観世 そうですね。例えばアフリカとか南米で木がなくなってきた。そうすると植物があつてその酸素と炭酸ガスの循環ができていたのに、そのバランスが崩れちゃう。そうした時に、いっしょうけんめい頭で考えても頭が半分しか回転しないとか、大きな声も出せないとかになって、それこそ音楽なんかやっちゃいられないっていうところにつながって来るんじゃないかと……。ですから本

当は日々の生活でいかに無駄なエネルギーを使わないようにするかというのを、どっかでしなくちゃいけないんじゃないかと思うんですよ。武谷 おっしゃるとおりですね。例えばトラック輸送ですが、近年、鉄道は非効率だと専らトラックで荷物をどんどん運んでいます。しかし、同じ重さのものを運ぶんでも鉄道で運ぶのに比べてトラックで運ぶと約六倍ものエネルギーがいるんです。おまけにガンなどのものになるという

NOX(窒素酸化物)とか、騒音公害とか、あらゆる公害をジャンジャンまき散らしながら走っているという事なんですよ。だから、いくら赤字になろうと何だろうと国鉄のようなものはフルに利用しなくては。熱帯林というのは豪雨が多いので一度切っちゃうと土に流される方が多くなつて、樹林が育ちにくくなるということがあり、砂漠化が進みつつあります。それと、海の上が油で汚染されますと海の中でどんどん炭酸ガスを吸って酸素を出すプランクトンが死んでしまうのです。それで結局炭酸ガスから酸素へ行くということがだめになってしまふ。もう、いいデータ一つもないですね。戦争もこまるし平和もこまる。だから科学を使うなら、本当に科学的に使つてほしいということですね。

観世 そうでしょうね。ですから僕らはそういうことを体で感じて、自分たちの仕事のどこかでやってゆかなきゃいけないんじゃないかと思ひますね。武谷 そうですね。それをやっているんですよ。

新しい日本語の音楽づくりに期待したい

武谷 ところで、この能や狂言の新作というのは……。

観世 ええ、やってはいるんですがうまくできない。というのはあまりに能、狂言のスタイルというのが決まっているのと、そのスタイルに合った技法ができあがっているの。それをはずしてやると、能じやないなんて言われたりもするし。それで、ひとつは今まで埋もれてしまった古い曲を復曲する。そういう仕事の中で色々考えて新たに作り出すっていうことに皆の興味がいきますから。ここ二十年くらいでずいぶん復曲されましたから、もうそろそろ新しい作品を創っていくこともできるんじゃないかと。いつまでも「隅田川」をやっているんではなくて、来年あたりにはそういうのをどうやろうかってこの間も話し合ったところで。

武谷 それは楽しみです。それから日本音楽集団をきいていて非常に満足しているのは、歌のない琵琶かな。観世 僕よくわかんないけど、琵琶のは三味線のパチを発展させたようなパチで弾くようになった。その前は雅楽でやっていた琵琶のようにダカダンと弾いていたんではないかと。その大きなパチで弾くようになって全く構造的に変ってきたんじゃないかと思うんですよ。つまりダダダと和音を弾いていたんじゃないかな。

武谷 はあそうですね。なるほどね。能なんかは言葉と音楽が全部調和しているんですよ。だから逆に動きがとれないって今おっしゃったけど。筆は筆でちゃんと筆に合わせてお歌いになるからとてもシンプルで時として眠くなるんですけど、異和感がないし。三味線は非常にバラエティがあつて例えば浪花節の三味線はと

ても表情豊かです。ですから日本音楽集団は色々新しい試みやってみようから。その辺、言葉の作品、琵琶の音楽も含めてもっと開拓してほしいですね。

観世 そう、集団もよくやってくれている。僕なんか、こういうのだと琵琶をやるととてもいいと思うものもあります。それから、日本の音楽というのは文学にくっついていて、ヨーロッパの音楽に比べて有機的な音楽というのかな。だからその辺がもっと色々研究されるとね。日本語の歌を作っていく時にもっとおもしろくなっていくんじゃないかと思うんですよ。

注

法華僧と浄土僧が道連れとなり同宿して宗論をする。それぞれが説いて譲らず。果ては踊り念佛、踊り題目となるが、いつか気づかず、念佛と題目をまちがって唱え、もとは同じ仏の道と和訳する——というあらすじ。



「僕らはそういうことを自分たちの仕事のどこかでやってみようね……」観世 栄夫氏

現代邦楽事情

田中家情報 — その3 —

邦楽ジャーナル編集長 田中 隆文

へその2を書いてから五カ月が経った。その間に行われた多くの演奏会から、特徴づけられるものをピックアップしてみたい。

若手・年輩を問わず、プロのミニコンサートは相変わらず盛んだ。原宿アコースタジオやジャンジャンの他、最近良く耳にする会場として、新宿のモーツァルトサロンがある。おそらく「邦山会レクチャーサロンコンサート」(5/28・9/25)が火付け役だろうと思うが、砂崎知子と平野健次コンビによるレクチャーコンサート「現代の箏曲」(9/10・24)や、青木鈴基門下精鋭による「Kethoコンサート」(10/8)などが行われるようになった。

この夏はコンサートツアーが多く行われた。昨年9月14日に渋谷ジャンジャンで始まった「野坂恵子ライブ」は、6月30日、同所で全国57カ所のツアーを終えた。この二十絃箏による新たな試みは、延べ二万人の聴衆に、会のあり方と共にその演奏スタイルで波紋を投げかけるものとなった。

山本邦山は来日したカール・ハンス・ベルガー(ビブラホン)と佐藤允彦(ピアノ)とで、ジャズライヴ「シルキーアドヴェンチャー」(7/31・17)を行った。三人のオリジナルが交錯する中で、ジャズの範疇を超えた新しい曲が数多く生み出された。

沢井忠夫の北海道コンサートツアー「北の風につて」(7/21)は、2月の九州公演に次ぐもの。

若手のツアーでは、五人の自作の尺八重奏曲を一曲ずつひっ下げての「尺八1979オリジナルコンサート」(7/28・8/5)。これも自作曲を中心に、自ら進行役となってアットホームな会を作り出した、正統社の「野村祐子筆リサイタル」(7/13・20・24)などがあった。

10月以降にも、正派音楽院出の三人グループ「箏・三味」、石川恵弘と大友竹邦の十一カ所「ジョイントコンサート」がある。

10月の芸術祭参加公演の音楽部門を眺めてみると、今年は39公演中、24公演が邦楽で、約三分の二を占めている。内、三曲関係は16公演で、古典ものと現代もので8公演ずつ分けている。全体的にみると古典が圧倒的に多いが、これは最近の傾向だ。特徴的な会をいくつかひろってみると、尺八本曲にふさわしい場を求めて洞窟など全国行脚した田嶋直士の「尺八本曲の世界」(10/26)。これは尺八古典本曲だけのプログラムだ。現代曲をとり入れているが、これまた尺八一本による邦山会の「石垣征山尺八独奏会」(10/30)。女の情念をライフワークのようにしている深海さとみは、梓屋正邦に委嘱した「細川ガラシャ夫人」一曲にしばった、箏

リサイタル(10/30)をする。

古典の会の曲数は大体どれも三曲で落ち着いている。ここでは青木鈴基が、米川敏子・西潟美溪・山勢司都子・井口法能・友洲のりえの5公演に尺八の助演として活躍する。やはり三曲は青木鈴基ということか。

この時期、芸術祭参加以外でも面白そうな会が数多くある。若手では竹心会の「菅原久仁義尺八リサイタル」(10/14)、正派の「宇野文恵筆リサイタル」など。団体の会では何と言っても「日本音楽集団第一〇〇回記念定期」(10/13)が目立つ。「邦楽4人の会第50回定期」(10/22)もある。日本の現代邦楽を支えている重要なグループが、両者とも期せずして、同時期に記念すべき会を催すことで、一つの区切りを迎えることになった。他にも「宮城合奏団演奏会」(10/14)がある。

一つ感じることだが、10月の芸術祭シーズンに会が集中するのは、会主にとっても、聴衆にとっても利は少ないと思う。第一、会がありすぎて目立たなくなるし、聴きに行く方も分散してしまう。盛り上がる時期にやりたいというのは人情かもしれないが、一考の余地はあると思う。

話題性と言えば、横山勝也・鶴田錦史がサントリーホールで岩城宏之指揮・メルボルン交響楽団と「ノヴェンバー・ステップス」を演奏する

(10/24)。指揮が小澤でなく岩城というのも珍しい。

横山勝也は尺八の国際学校を作りたいたと、十数年かけて魔校めぐりをしてきたが、この度、岡山の実星町でその夢が実現することとなった。いよいよ来年からスタートするようだ。この事業は、邦楽界だけでなく、各界に多くの問題を提起することになるはずだ。

世間を見廻して感じることは、邦楽も含めた民族音楽が一般に見直されてきていることだ。インドネシアのガムランは増々はやりに、韓国やアフリカの太鼓群団の来日は、聴くものを熱狂させた。坂本龍一や細野晴臣が、それぞれ邦楽器を使ってレコードや映画音楽を作り、原宿ラ・フォーレで文楽や奏琴の演奏会が何げなく行われたりする。

これらは一つの事例にすぎないが、過去あった邦楽ブームと違うところは、それが民族音楽であるということと、若者文化に根付いていることだ。価値感の多様化する今日、西洋の音楽的仕方が絶対的なものでないことに気が付いた所以だ。この流れの強さ如何で、邦楽界も変化していくことだろう。

すでに邦楽は注目されている――。

第五回全国小中学生箏曲コンクールの報告

牧本 典雄

福山市は宮城道雄ゆかりの地であるとともに、琴の生産量が全国の七割を誇るいわば琴のメッカである。その福山市で去る七月二十八日(火)福山市民会館を会場に、第五回小中学生箏曲コンクールが開催された。この催しは、次の世代を担う小中学生に邦楽と触れあう機会を広げ、箏演奏技術を向上させることなどを目的とし、昭和五十八年より毎年福山で開催されているものである。応募者も回を重ねる毎に増加し、本年も広島、岡山県はもとより山口、島根、大阪、東京、岩手県など全国各地から

二百名をこえる参加者があった。特に本年より設けられた個人の部は八十二名と多数のため前日に予選を行い三十名を選出した。曲目も「八段の調」「神仙調舞曲」「桂つき」「月光幻想曲」「禁じられた遊び」など多彩なものだった。団体合奏の部は小学校五校、中学校八校の参加があり、曲目は「うれしいひなまつり」「タヤけ小やけ愛奏曲」「サバの女王」「コンドルは飛んで行く」などの楽しい編曲ものがならんでいた。今後、団体参加を増やし、コンクールを発展させるためにも易しく楽

しい合奏曲の誕生が望まれていることを痛感した。尚おもな表彰者は次の通りである。

個人の部

小学生

最優秀賞 河野朋子

賞面市中小学校五年

中学生

最優秀賞 英井麻美

盛岡市上田中学校三年

団体の部

小学生

最優秀賞 (県知事賞)

兵庫県蓮池小学校箏曲クラブ

中学生

最優秀賞 (県知事賞)

玉野市日比中学校箏曲部

審査員

吉川英史、長沢勝俊、砂崎知子、島原寛山、花房はる

え、浜島高彰(福山文化連盟副会長)以上六名

附属品・琴糸メ・三絃皮張・貸琴

手造り
琴・三味線 専門

竜勝堂

●先生をご紹介致します。

クリ甲など、ならないお琴もなるように修理出来ます。

倉持楽器店

電話 (店) 0473-45-5807
0471-63-3864

営業時間 午前9:30~午後6:30
日曜休日 土曜9:00迄

「つみたてクレジット」で
大きな安心と計画つみたて



※安田火災海上

積立家族傷害保険

新発売

健康はご家族の大きな財産。
だから備えが必要です。

※ 損害保険の安田火災はあなたの暮らしをワイドに補償致します。

※ あなたの保険設計は明和損害保険企画におまかせ下さい。

日本音楽集団指定損害保険代理店
明和損害保険企画

RM 小笠原 明男 オフィス ☎937-0547
安田火災海上保険板橋支社 ☎962-7311

日本音楽集団定期演奏会報告

第98回 人形と邦楽器によるパフォーマンス

長沢勝俊作品による

上野 晃



今回は、当団の代表で創立以来のいわば座付き作曲家の長沢勝俊の作品特集。長沢の古巣でもある「人形劇団ブーケ」と提携、川尻泰司の構成・演出で「人形と邦楽器によるパフォーマンス」というのが呼び物。

三弦と箏の二重奏による「春三題」（1977年作）から始まる。が、両奏者のあいだに距離がいくらか感ぜられる。次の「香」（82年作）は、へかへかしき琵琶の音によせて」と副題されているように、琵琶を主役として横笛と尺八と箏と十七絃が協奏する。半田淳子の抒情的なソロと他の4楽器との爽やかな好連携が、美しきアトモスフィアを生む。

横笛と打楽器による「運路」（75年作）から、舞台背後に動く造形があらわれる。鎖の幾何学的模様だった。角形や円筒形の大提灯だった。後半は初めビツコロのように、視聴の自立的なパフォーミングが空間をひろくする。「樹冠」（79年作）の尺八と二面の二十絃と十七絃の四重奏が、それぞれの自発的な個性とトータル色彩を投影したあと、「人形風土記」（66年）が、手作りの映像や木彫による人形劇とともに野郎な情感を屈託なく奏でた。5月19日・朝日生命ホール（音楽の友7月号より）

第99回 伊福部昭探訪の旅の果実が……

小宮多美江

第100回を前にした7月の定期は、中村八人の「秋のコンチエルト」、伊福部昭の「響多々良」、池辺晋一郎の「雨の向う側」、安達元彦の「邦楽器のためのシヤコンヌ」。

いずれも初演ではなく、むしろ、すでに一定の評価を得ている曲ばかりで手堅く組んだプログラムだった。それだけに、演奏に輝きが見られなかった場合の印象は正直いって薄い。実は私は、六月の末、伊福部昭のルーツをたずねて十日間の北海道旅行を果たしてきたばかりであった。

そして「響多々良」が、旅行後初めて聴く伊福部昭作品であったのだが、これがまた、非常に新鮮に聴こえたことに驚いたものである。

「響多々良」は、まず、邦楽的印象を避けていること、ひちりきや笙を使っている編成からいうと雅楽のような俗楽であること、また、たたら、と名付けているように、作曲家独特のへそまがりの反抗心が二重三重に潜んでいることを、今回の演奏はよく表したものはなかったのではない。

演奏は、客演に大塚永夫（ひちりき）と宮田まゆみ（笙）を迎えたほかは集団の主要メンバー、指揮は田村拓男であった。

とりわけ、田村の指揮が、今回の新しい印象を生んだものではなかったかと思ふ。決して、取りすました音楽ではなく、人間のもっとも根源的な動き、自然の中で自在にはばたく精神を殆ど官能的なものとして感じることができた。

考えてみれば、それは伊福部昭の音楽の全てにある本質にはかならない。現代邦楽作品だけが、例外であるわけがないのに、これまでの私は、「響多々良」に対して、他の伊福部作品とちよつと、ちがう鑑賞しかしていなかった。それは、「響多々良」の誕生が、1972年という、いわゆる現代邦楽ブームの真っただなか、しかも文化庁委嘱、芸術祭主催公演でのことであることが私の中で、第一印象として、ひっかかっていただろうか？

ともあれ、私にとっては伊福部昭探訪の旅の果実が意外にもこのような形で得られたことに密かな驚きと喜びをおぼえた次第である。

それにしても、「響多々良」のような曲は、もっと度々演奏されてよいと思うが、集団のメンバーにまだ、ひちりきや笙をこなせるものがないという事情からきているのなら、それはぜひ、早急に解決してほしい課題だと思う。

美恵子の三味線みてある記

続・ドイツからの報告

野口 美恵子



87.4.16 メーリンク氏と子息のやすし君とともにミュンスターの森を散歩

春も間ちかい四月三日に、三木松作曲オペラへあだんはドイツ初演の初日を迎えた。全二幕十八場、二時間五十分の舞台は、児玉氏の指揮のもとメーリンク氏や各俳優によって、吸い込まれるような場面が展開され、息をひそめて見守る観客の熱い期待に応えた。私は、初体験のしかも日本の楽器としてただ一人、ドイツでオペラに参加した緊張で身がひきしまった。私の担当は三味線と鼓で、古典の手付、三味線では「鶯娘」の責めの合方、鼓では急の舞などが押入されていた。

この素晴らしい舞台の終演後のカーテンコールは、一体何分続いたことだろう。ドイツの報道各紙三十数社、テレビ、ラジオで絶賛され、何人も劇場スタッフが三木氏の所へとんできて「すごい評価」だと肩をたたき、新作オペラ公演がこのような大成功を納めたことはかつてなかったと、児玉氏はじめ多くの関係者は、大きな驚きと喜びをくり返した。

四月十日には、美しい緑と池にこまれたケルン日本文化会館で、国際交流基金主催の三味線リサイタルが行われた。館長は以前、NHKテレビのドイツ語講座でお馴染みの、笑顔のやさしい小堀節先生。副館長は、日本音楽集団が東南アジアへ演奏旅行したさい同行された小松諒悦氏。小松さんは懐しそくに、日本音楽集団やメンバーのようすをたずねられた。そして、初のリサイタルで緊張している私を笑わせ、心なごま

そんな旅のある日、車内のワンボックス六人がけの個室シートに入ると、中年の女性と白髪の老婦人がいた。「グーテンターク」と言っただけで、ニコニコやさしそうな白髪の老婦人が話しかけて来た。そしていろいろたずねられた私は、今、オペラに出演のため日本から三味線を演奏しに来ていること、すでにケルンでリサイタルを行ったことを話すと、「三味線とは何だ」と二人で聞く。どう説明したものか困った揚句、紙に書いて見せると、中年の女性が、「オー・パンジョーノアイ・ハブ・ア・パンジョー」と言っただけで、茶色いケースを下ろし、ファスナーをあける手もちどしく、美しいパ

せて下さる。司会は三木松氏、通訳は国立ボン大学のトーマス・ライムス氏。演目は「沙波」「黒髪」とともに弾唄い、「古典メドレー」「奔手」「紫の講」で、デュッセルドルフの黒川剛総領事、国立ケルン大学のギュンター教授ご夫妻はじめ、多くの方が来聴された。こんなことがあつて以来、多くの方々と知り合いになることができた。二ヶ月の滞在中の淋しさもうすれた。

慣れない一人暮らしの私を心配して、児玉夫妻やメーリンク夫妻は度々私をサイクリングや食事に誘って下さった。私もアクセントをつけるように、たびたびあちこち小旅行。ケルンでは大聖堂の下美術館を観たり、ブレーメンを散策したり、汽車に乗って一、二時間の街をあちこち訪ねた。

ある日、ホームコンサートでソロの曲を弾くと、「古典とは少し違う曲のようなの、もしや日本音楽集団の方では」と一人の女性が訪ねられた。五年前、浦和西高の先生をしていた折、集団の学校公演を聴いたことだった。このように、在独中いくどとなくいろいろな方々との関わりから、日本音楽集団の存在を思いがけなく認識させられることになった。あの車中の白髪の老婦人も、ハンブルクでの二度の演奏会に来聴され、望外の喜びであった。この他にも、数えきれぬ程多くの方々のあふれるご親切とご好意を受け、五月十九日、言いつくせぬ程の感謝の気持ちを胸に抱き、ハンブルクを発つて帰国の途についた。

小さな空間 大きな出会い

工藤 哲子

サロンコンサートレポート Vol 2



No.14サロンコンサート「尺八と弦楽四重奏による平和へのうた」

No.15 語り物の世界「浪曲」二題、琵琶二題（9/9）

以上が五月以降のプログラムである。特に印象に残ったのは、あの八月六日、原爆記念日に催された「反核コンサート」。尺八と弦楽四重奏による平和へのうたである。坂田誠山がプロデュース、出演し、日本ワイルハーモニー・クワルテット（V.I. 吉川利幸、V.II 辻野順子、Va. 新井豊治、Vc. 中務幸彦）が賛助出演。

聴衆の反応を演奏者が感じながら奏するという理想的なコミュニケーションが創られている。又、このコンサートは、ソロ、或いは少人数で演奏されているので、ミニリサイタルの要素を含んでいる。そのためか、各回ともに定期演奏会の大編成では見られぬ、聴けぬプレイヤーの個性が、演奏面に加え、プログラムミングにも発揮されている。そして、各コンサート間の、演奏者間の「音」に対する厳しい競い合いを感じることができている。

それらは、新曲の委嘱——「三味線三重奏曲」秋岸寛久作曲（No.12）、「デシメルング」尾崎敏之作曲（No.14）——、団外演奏家との共演——大松幾子さん（朗読、No.11）、服部尚子さん（ピアノ、No.12）、日本フィルハーモニー・クワルテット（No.14）、国本武春さん（浪曲）岩崎節子さん（曲師）共にNo.15——、聴衆参加——おはやし教室（No.13）——などに現われてきている。

日本音楽集団と後援会。ニッポニアメイツ。共催のサロンコンサートも毎月一回のペースで開かれるようになって半年余り。回を重ねることに聴衆と演奏者の交流が深まってきている。

No.11 箏と尺八——楽しいアンサン

ニッポニアメイツ サマーフェスティバル 開催

日頃、一堂に会する機会の少ないメイツ会員や音楽集団定期会員と集団員との交流を深める趣旨で、八月二十二日にアコスタジオに於て、



ヴァル・パーティー風景



象を語る下山さん



ほろびん抄

されど記念日

日本音楽集団のとき

この曲と決めて五輪の年の秋響く「子供のための組曲」

相聞歌なかで身に沁む琵琶の音、「古代舞曲」によるバラフレーズ

ハンバーガーショップの席を立ち上がるように古典を捨てはしません

コンサート果てて照明も消えたのに拍手の鳴りやまぬロンドンの夜 昨晩の巨火のうねりのカーネギー耳に埋み火ニユーヨークの朝

各地から講習に集う人がいて北軽井沢ミュージックホール

ステージの上に寝そべるお夢たち いわしの十三、まぐろの二十

髪型もウエストもまた生徒らの話題なるらしい学校公演

集団という字を書いて横線の多いことのみなぜか気になる

「ニッポニア・ニッポン」サマーフェスティ
イヴニングが催された。
音楽を愛する仲間が集いとしての
会員によるミニコンサート。あ
なたは番で「こころ」と。には六
名の方が出演。筆、笛、沖繩三線の
演奏に大正演歌。カンディンスキー
の絵の印象を、団員が即興演奏した
り、同じく団員の演奏を加えての人
形劇。ぱく、ひろしくん、など音
を通じての楽しい交流が繰り広げら
れていた。

日本音楽集団 1987年 5月～10月の主な活動記録

5月31日(日)～6月6日(土)
島根県巡回学校公演
6月4日(木)
世界フオレックス東京大会に出演
ホテル・ニューオータニ
6月10日(水)
No.12サロン・コンサート
アコスタディオ
6月14日(日)
横浜・緑区音楽祭に出演
緑区公会堂
6月19日(金)
武蔵野公演
武蔵野市民文化会館
6月23日(火)
長岡工業高校音楽鑑賞会
長岡市立劇場
6月29日(月)・30日(火)
キンダレコード「ボレロ・ジャパネスク」録音
浦安市民文化会館
No.13サロンコンサート
アコスタディオ
7月7日(火)
朝日生命ホール
第99回定期演奏会
7月16日(木)・17日(金)
秋田県学校音楽鑑賞会
湯沢文化会館 他

7月18日(土)
ハートランド・ビブサ・カス「オーブニング
3 DAYS」に出演
7月20日(月)
NHK・FM放送「邦楽のひととき」ヘタクシム
を録音(7月29日放送)
8月6日(木)
No.14サロンコンサート
アコスタディオ
8月22日(土)
サマー・フェスティバル
アコスタディオ
8月25日(火)・28日(金)
佐久市中学校巡回公演
一九八七年度日本音楽集団地方公演
(8月28日長野・29日松本・30日小諸・31日諏訪)
9月7日(月)・12日(土)
山形県鶴岡市巡回学校公演
9月9日(水)
No.15サロンコンサート
アコスタディオ
9月17日(木)
宮城教育大学教育学部附属中学音楽鑑賞会
9月19日(土)
一九八七年度日本音楽集団地方公演甲府公演

9月20日(日)
日本音楽台座フェスティバルに出演
名古屋芸術創造センター
9月25日(金)
根津美術館ギャラリーコンサート
根津美術館
9月26日(土)
新津高校音楽鑑賞会
9月28日(月)・10月2日(金)
東北巡回学校公演
9月30日(木)
秋田県六郷高校音楽鑑賞会
10月1日(木)
秋田市立東高校音楽鑑賞会
10月2日(金)
秋父市立東高校音楽鑑賞会
No.16サロンコンサート
アコスタディオ
10月6日(火)・7日(水)
秋田県巡回学校公演
10月9日(金)
新発田市中学校音楽鑑賞会
10月13日(火)
第一〇〇回記念定期演奏会
都市センターホール



華に人形劇に大熱演の林さん



サマーフェスティ



三線を熱演する平田さん



カンディンスキーの絵の印



名古屋からの参加、斎藤さん



演奏中の望月さん

長い友

室くじを買って自前の劇場をもし
もの夢に地図を広げる
「この音がいいね」と皆が言っ
てから十月十三日は一〇〇回記念日
11・17(第一回)が10・13になる
積み重ね八千三百六十五日

29になって貰い手ないときは連絡
しろよと団員を買う
「嫁さんになれよ」だなんてウイ
スキー二本で言ってしまった
この時間君は電話もよこさずにと
こで飲んで誰と酔ってる

「おまえオレに言いたいことがある
だろう」決めつけられて別れると
言う

妻のこと「母さん」と呼ぶためら
いのある筈もなし二児の父親

おしほりて顔を拭くとき「ああ」
という顔も拭けば手も足も拭く

髪の毛は長い友だとコマール
言ってくれるじゃないのと思う

(黒髪 望)

これらの歌は、徳万智さんの歌集
「サラダ記念日」から堂々と借り
しました。

日本音楽集団及び団員等の今後の予定

10月15日(木)・23日(金)
奈良県巡回学校公演
10月20日(火)
田原順子ピアノ・イン・アウラ
（ほかに12月18日、88年2月、4月、6月予定）
10月24日(土)
田原順子琵琶の夕べ
（ほかに88年1月、4月、7月、10月予定）
10月27日(火)
第13回関西定期演奏会（京都）
10月28日(水)
畦地慶司第七回胡弓リサイタル 音楽の友ホール
10月30日(金)
新島大学教育学部附属長岡中学校
キリンピアホール・六本木ハートランド・ライヴ
11月7日(土)
田原順子琵琶の夕べの会 名古屋じゆう舞台劇場
11月9日(月)
Na17サロンコンサート アコスタディオ
「関宮芳生の世界」でヘタクシムを演奏
モーツァルトサロン

11月9日(月)・10日(火)
市川市巡回学校公演
11月13日(金)
天理高校
11月18日(水)
第101回定期演奏会
11月19日(木)
黒坂昇打楽器リサイタルに出演（青森）
11月20日(金)
「日本音楽の夕べ」に出演（秋田）
11月22日(日)
三橋貴風尺八コンサート
12月14日(月)
Na18サロンコンサート アコスタディオ
木村玲子リサイタル ABCホール
12月21日(月)
青蘭学院
12月22日(火)
三橋貴風・吉村七重ジョイントリサイタル（文化
庁優秀舞台芸術奨励公演）
名古屋市電気文化会館コンサートホール
1月8日(金)
コンサート・イン・ローズ 横浜高島屋ホール

1月15日(金)
横浜おやこ劇場
1月20日(水)
第107回定期演奏会
2月5日(金)
関市学校鑑賞会
2月15日(月)
Na19サロンコンサート
2月下旬・3月中旬
第14次海外演奏会アメリカ公演（日本舞台芸術交
流事業）
3月8日(火)
ヤングビープルス・コンサート 虎ノ門ホール
3月13日(日)
松戸子ども劇場 松戸市民会館
3月30日(水)
吉村七重リサイタル バリオホール
4月25日(月)
第103回定期演奏会 バリオホール
5月31日(火)
静岡雙葉高校
6月21日(火)
第104回定期演奏会 朝日生命ホール

尺八と華の月刊イベント情報誌

邦楽 ジャーナル

雑誌や電波に乗って情報が氾濫するご時世ですが、こと
邦楽となると、その情報の入手は困難をきわめます。
おそらく口コミとチラシに頼っているのが現実でしょう。
コンサートに限らず、オーディションやコンクールの受
け付け、合奏団の団員募集、邦楽器商組合の活動なども
あまり知られていません。
この雑誌は尺八と華の音楽を中心に、ナマの情報を全国
から集めてビジュアルに提供します。

SHAKUHACHI AND KOTO MUSIC NOW INFORMATION MAGAZINE

▼きめ細かい確かな情報▲

コンサート情報／ライブ情報
ラジオ・テレビ情報／団体情報／時事的情報
▼シリーズで追う身近な記事▲
潜入ルポ／楽器の基礎知識／楽器造りの現場
／邦楽と教育界／今月の問題点／クロスオーバー

毎月1日発売・10月号特集『長沢勝俊』



フォーカス判・20ページ
予価300円(送料50円)
年間講読=4200円、
半年講読=2100円(送料共)

発行／田中家

〒160東京都新宿区高田馬場3-39-9
グリーンハイツ202 ☎03-360-1329

日本の響
真山銘尺八

〒561 豊中市服部本町5丁目5-6 TEL(06)863-0564

デザイン
水谷繁山

邦楽器全般 なつみや楽器店

〒598

泉佐野市栄町6～11

TEL 0724(63) 1246

琴、三味線 譜本、舞扇子、附属品

日本の心、伝統の音色 奏でてみませんか



製造・修理
邦楽器の専門店

つるや楽器

ローン取扱い致します

堺市大町東1丁2-2(宿院) ☎0722(32)0521(代)

創業・昭和8年

お琴・三味線の琴栄

●東海一の実績を誇る店



◇1階・店舗

- ◇三味線、尺八、舞扇、多数陳列
- ◇お琴、三味線、尺八の付属品、楽譜 多数取揃えてあります

◇2階・お琴展示場(ミニ舞台付)

- ◇お琴、箏、20絃琴、17絃琴と豊富に取揃えてあります
- ◇ミニ舞台でお琴を弾いて下さい

〈お買い求め〉 クレジット販売をご利用下さいませ。(最長30日間)
〈パンフレット〉 無料送付致します。



御琴・三味線専門
琴栄楽器店

代表・増田康寿

〒500 岐阜市司町九(大学病院前)
TEL (0582) 81826代



露秋銘 尺八

西田露秋

〒794 今治市新谷新田甲798

電話 0898-48-1097・1257

1000年の時が育んだ

豊潤な音の響き!!

レトロ、エスニック、ニューエイジ、ミュージック……..
全てを包み、かつ超越した新しい音楽の音の誕生!!



発売元
キングレコード
株式会社

日本音楽集団

ジャパネスク

ボロ

聴いて下さる方々の耳と心の中に
これまでなかった新しく楽しい空間が
形成されますように——
池辺晋一郎

信じられない調和。
近年にない
特筆すべきコード——
砂川しげひさ

きわめて斬新な効果を
示した演奏——
黒田基一

二重三重に
冒險的な意図と
貴重な意義を
もった内容——
石田一志



Japanesque
BOLERO
Pro Musica Nipponia

- SIDE A
●ジムノペディ第1番(エリック・サティ) ●ボレロ(マニエール)
●グノシエンヌ第1番(エリック・サティ)
SIDE B
●夢のあとにフォーレ ●月の光(ビゼー)
●バスビエ(ビゼー) ●シチリアーノ(フォーレ)

演奏: 日本音楽集団

特別参加 ● 菅 吉田あゆみ ● 音楽: 大澤永夫(作曲) ● 演奏: 黒田基一(指揮)

指揮: 荒谷俊治 / 編曲: 池辺晋一郎

録音: 1987年6月25日・30日・31日 東京都立文化会館ホール

★デジタル録音

CD 1100円(税別) ● LP 2,800円(税別) ● カセット 2,800円(税別)



日本音楽集団
PRO
MUSICA
NIPPONIA



最高の品質

常盤
強力®
琴糸

サエ グサ
三 枝 商店

応援します「邦楽現代」

和楽器専門店

老舗
KK金善楽器店

京都市東山区大和太路通り四條下ル二丁目亀田町五七
TEL
(075) 五六一一九四〇 五四二一一〇九三
五二五一一三七五(夜間)

八尺銘山箏

琴古、都山各寸美麗仕上
特製品^{すす}煤竹も各寸揃います。

山 箏 村 木

〒379-16 群馬県利根郡水上町谷川437

TEL.0278-72-4108

永い伝統と経験から創り出される
豊富な“止水の和楽器”



新発売
明鏡笛^(しの笛)
(正律管)
ベース三味線

しすいの
和楽器

止水の和楽器 発売元

明鏡楽器

〒130 東京都墨田区横川4-1-2 ☎(03)623-6346(代表)

琴・三絃
一 藤

ローン・下取り・修理致します。

[八千代店] 千葉県八千代市八千代台北

17-16-13

☎0474-84-8859

[調布店] 東京都調布市上石原

1-6-14

☎0424-84-0092

祝
100回定期シーズン



アイ・エム・エス

●楽器リース●保管●移動●ステージ・スタッフ派遣

〒167 東京都杉並区上荻2-21-25

オリオンシャトー1F

PHONE. 03-397-2292

箏

二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、楽器の本質を追求した箏

日本音楽集団推薦

琴光堂和楽器店

東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL (792) 8481



オリジナル立奏台

日本の音、その磨きぬかれたひびき

歌謡曲から「春の海」まで!!

五線譜で楽に尺八が吹けます

尺八リコーダー



持ちやすい
吹きやすい
7孔ドレミ調
(学校教材に最適)

品番
2111
楓

標準価格
1.6尺C調 ¥8,000

品番
2117
洋紫檀

標準価格
1.6尺C調 ¥12,000

ジャズ、ポピュラー、クラシック、尺八本曲、
古曲、唱歌、民謡、歌謡曲、詩吟等あらゆる
分野の音楽を自由に奏でられます。

宮田耕八朗 監修

新発売!!

株ワダ楽器